

「虫供養」-2025-



全社員が本社に一堂に会する年一回の行事で、玄関前で記念撮影

めました。

に記 ていただきました。 神主さんに全社員がお祓いをして



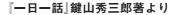
玉串奉てんを行う清水社長



鍵山秀三郎さんに学ぶ

力を出しきる

資格や能力がなくても、自分の力を出しきっている人は、日々、満足感を味わいイキイキしています。





置くだけムカデンジャー



殺虫剤 **「ゴキブリキャップ」**

団子から改良続け40年

の物影から現れる黒い物体 「G」―。多くの人にとって「天 夜になると台所や洗面

リ団子」が入っている。約50年 ギや小麦粉を混ぜた「ゴキブ を引き起こすホウ酸、ゴキブ リを引き寄せるためのタマネ 殺虫剤「ゴキブリキャップ」だ。 することなく撃退できるのが キャップの中には脱水症状

敵」であるゴキブリを、目撃

タニサケ=池田町

雄さん(1919~88年)が ながら開発した。 学や衛生研究所に足を運び 自宅で5千匹ほどを飼い、大 れていた垂井町の故谷酒茂

町でスーパーを経営してい を配布した。 し「町からゴキブリをいなく は、町商工会と婦人会が協力 する。1980年代中ごろに 団子製造は同町内へと波及 2024年)の目にとまり、 た故松岡浩さん(44年) 婦人会が作ったゴキブリ団子 する運動」を始め、各家庭に

アノキャッフ

「商品化をしてほしい」とい タニサケ 1985年、「谷酒生物

公害研究所」として垂井町に創 業。89年に池田町に本社を移転 し、社名を現在の「タニサケ」に

改めた。主力のゴキブリ殺虫剤 「ゴキブリキャップ」やナメクジ、 ムカデ忌避剤などを製造する。社 員数39人(2025年3月現在)。

前、自宅でゴキブリに悩まさ

このゴキブリ団子が池田

できるのが特徴だ。 と追いやって死なせることが 酸は、ゴキブリの代謝を止め で寄せ付けて食べさせるホウ ップ」が発売された。タマネギ を設立。86年、「ゴキブリキャ て脱水させ、水がある屋外へ さんは谷酒生物公害研究所 う声に応え、谷酒さんと松岡

ゴキブリキャップ色とゴキブリキャップ P1を紹介する清水社長=池田町片山で

וויין דוין

のゴキブリを飼育し、改良 キャップP1」を発売した。 ピーナツを含んだ「ゴキブリ 誘引効果が高いと判明した 2006年には、試験でより 験や商品開発を行う。

ったものを、開封から1年に 果が持続するようになった。 延長。未開封では5年間効 現した。従来製造から1年だ 更し、有効期限の長期化を実 20年には、包装の仕方を変

い」と意気込む。 改良をさらに続けていきた ているのはありがたい。商品の ても効果が認められ、使われ 水勝己社長(57)は「40年たつ 発売から来年で40年。清

多く置くと良いという。 れるキッチンや水回りには特に 長によると、ゴキブリがよく現 に1個置くと効果的。清水社 ゴキブリキャップは1平方と

(長尾明日香

い・・・」と消え入りそうな声で

たった一 生きている証拠ですよ 言

ろう、 が乗ってきた。 電車内に恐らくホームレスであ 帰宅ラッシュで混雑している 髪の毛も伸びたままのご老人 ボ 口 ボロで汚れた服を着

が、 りを見せない。そんな彼にご老人 臭に、車内にいた乗客はそのご老 人から距離を置くため離れた。 んだろうと思わざるを得ない異 男性はその場から離れる素振 お風呂に入ることもできない しかし、スーツを着た若い一人 「汗臭いでしょう。申し訳な

言った。 きている証拠ですよ」と一言。 の言葉を聞いてご老人は涙を流 若い男性はニッコリ笑って「生

ろうと思った瞬間だった。 この若い男性のような人にな

一〇一人の、泣いて、笑って たった一言物語

同社では、3種類約2万匹